



AUE News

2012年4月1日

第 37 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500



目次

- 行事予定(4月1日-15日)
- トピックス
 - ・ 惟信高校生徒が本学見学
 - ・ ホシザキ電機に感謝状贈呈
 - ・ 第二福利施設食堂「UP」リニューアル
 - ・ 卒業・修了式
 - ・ 大学院修了証書授与式
 - ・ みよし市との包括協定
 - ・ 第1回広報セミナー
- ・ 退職者永年勤続表彰式
- お知らせ・報告・投稿
 - ・ 教科開発研究発表会
 - ・ 火星隕石観察会
 - ・ 天文台一般公開
 - ・ 校章入りえびせんべい発売
 - ・ Campus Now 第16号を発行
 - ・ 催しもの案内

行事予定(4/1-15)

- 2日(月) 辞令交付式(9:00～ 学長室)
- 3日(火) 役員部局長会議(13:00～ 学長室)
評価委員会(役員部局長会終了後、学長室)
- 4日(水) 入学式(10:30～ 講堂)
- 6日(金) 教務企画委員会(16:40～ 第二会議室)
学生支援委員会(16:40～ 第五会議室)
- 10日(火) 役員会(13:00～ 学長室)
- 11日(水) 教育創造開発機構委員会(9:30～ 大学会館)
代議員会(13:30～ 第五会議室)
教育研究評議会(代議員会終了後、第五会議室)

トピックス

惟信高校生徒が本学見学(3/15)



授業を担当したのは、情報教育の竹田尚彦教授。「情報とコンピュータの歴史と未来を考察しよう」をテーマに、約1時間講義した。パソコンやiPadを駆使して「90秒で分かるコンピュータの歴史」を分かりやすく紹介。さらに10年、20年後の未来に人と人とのコミュニケーションがどうなるかを質疑応答を交えて考える大学の授業に生徒たちは興味深そうに参加して

愛知県立惟信高等学校の1年生36人と教員3人が3月15日(木)、本学を見学した。

この日、生徒はそれぞれ公共交通機関を利用して来学。午前10時から第五会議室での説明会で大学概要、カリキュラムなどの説明を総務課、教務課の職員から受け、同11時からは模擬授業を体験した。



いた。

午後は、生協食堂でカフェテリアスタイルの昼食を楽しみ、学内の各施設を見学。附属図書館では情報図書課職員から所蔵書籍や閲覧室やAVコーナーなどの説明を聞いた。

ホシザキ電機に感謝状贈呈 (3/22)



ホシザキ電機（豊明市栄町南館）と同社の坂本精志会長から本学の教育研究基金へ寄附があり、3月22日（木）、学長室で感謝状贈呈式が行われた。同社からは坂本会長と北垣戸弘充取締役が来学し、松田正久学長、折出健二理事、都築繁幸理事、白石薫二理事が出迎えた。

式では学長が坂本会長と同社からの多額の寄付に対して感謝状を贈呈。この後、一行は講堂へ移動し、ロビー壁面に飾られた寄付者一覧に「ホシザキ電機（株）」「坂本精志」と

書かれた二つの銘板を学長とともにボードにはめ込み、理事からは拍手が送られた。記念写真撮影をして学長室に戻り、昼食を共にしながら歓談した。

坂本会長は両親が島根県出身で、自身も同県で小学生時代を過ごし、同社工場も設置。現在、会長は頻繁に故郷を訪問しており、雲南市では7校の中学生らに講演するなど教育界に貢献している。松田学長が同県出身で、本学の卒業生も同社で活躍していることから学長が2月に坂本会長を同社に訪ね、学生採用に謝意を示すなどして懇談している。



坂本会長は社会貢献活動に触れ「子どもに将来何になりたいかを聞くと、サラリーマンという。その先の夢が小さくなっている」などと話し、教育の重要性を語っていた。

第二福利施設食堂「UP」リニューアル(3/22)

第二福利施設食堂「UP（ゆうびい）」がこのほどリニューアルされ、3月22日（木）午後、披露パーティーが行われた。

今回の改装は生協の中期計画の重要テーマ「食堂の充実」の一環。3500万円の投資と大学の協力で、2010年3月の第一福利施設食堂「HANDS（ハンズ）」に次いで実施された。

改装の内容は、老朽化したテーブルや椅子の更新、床や壁の張り替えや塗装、一人でも利用しやすい「プライベートゾーン」の新設、昼休みの混雑時に利用しやすいように



一方通行の採用や、単品で利用できるおかずコーナーの設置など。席数は201席と従来に比べやや少なくなったものの、通路を広くしたことで人の回転がよくなり、利用者にとってより快適な環境が整えられた。

この日は、食堂玄関前で松田正久学長、清水秀己生協理事長、学生理事がテープカットをした。化粧直しされた食堂でのパーティーには約80人が参加して、和やかな雰囲気の中で飲食をしながらリニューアルを祝った。

通常の営業は4月5日（木）から開始される。

卒業・修了式(3/23)

2011年度卒業・修了式が3月23日（金）午前10時30分から、講堂で執り行われた。



今年度、卒業・修了したのは、教育学部教員養成課程 659 人、現代学芸課程 238 人、大学院教育学研究科 121 人、同教育実践研究科 36 人、特別支援教育特別専攻科 25 人の計 1079 人。

式では、学位記と修了証の授与が行われ、各課程の卒業・修了生代表が壇上に歩み出て松田正久学長から証書を受け取った。

学長告辞では松田学長が東日本大震災、福島原発の事故から1年が経過したことに触れ、本学卒業生の保護者で被災地の小学校に教員として勤める方から寄せられた手紙を紹介しながら「本学は被災地域の子どもの学習支援をはじめ、5年、10年と続く取り組みを進めてまいりますので、卒業される方々も後輩の活躍をしっかり見守ってください」と述べた。さらに「教師という職業は、一生学びの中にある職業。教師としての進化のため、いつでも大学院に戻ってきて、学び直しをしてください」「あらゆる局面で、“なぜ”“どうして”と自らに問いかけ、自らの力でその“解”を見出す努力を続けてください」などと激励。「皆さんの今後の大いなる活躍が、本学の、そして日本や世界を支える大きな力になるものと確信し、お一人お一人が健康で充実した人生を歩んでいかれることを祈念します」と結んだ。



これを受けて、卒業生・修了生の代表による答辞が行われた。初等教育教員養成課程の鈴木翔子さんは「この愛知教育大学で培った知識や経験を生かして社会に貢献していきたい」と決意を語った。

この後、来賓の紹介、管弦楽団の演奏、「蛍の光」斉唱が行われ、式は終了。講堂前ではあいにくの雨模様にもかかわらず、卒業・修了生たちをクラブやサークルの後輩たちが待ち受けて、胴上げをしたり、記念撮影をするなどして、先輩

たちの門出をにぎやかに祝った。

大学院修了証書授与式(3/23)

2011 年度大学院修了証書授与式が 3 月 23 日（金）午後 6 時 30 分から第五会議室で行われた。式には、大学院の昼夜開講コース・教職大学院を修了し、昼間の修了式に出席できなかった現職の教員 20 人が参列。一人一人の名前が呼ばれ、松田正久学長から学位記が手渡された。



学長告辞で松田学長は「今日の修了式を迎えられたこと、誠にありがとうございます。小学校や中学校にお勤めになりながら、本学大学院でそれぞれの学問分野や教育実践にかかわる研究をされ、晴れて修士号や専門職士の学位を取得された皆さんのご努力に対し、衷心より敬意を表します」と労をねぎらい、「皆さんは学校現場で先導的な役割を担っていかれることになり、今後の活躍に大きな期待を寄せております。この

春からは静岡大学との共同大学院も開設されますので、いつでもまた学びに戻ってきてください」などと激励の言葉を贈った。

修了生の答辞として、英語教育専攻の近藤恵奈さんは「大学院で学んだことを教育現場で生かしていきます」、教職実践専攻の西浦達郎さんは「2 年間、学校現場を離れることなく修了を迎えることができましたが、想像以上に大変でした。そんな時、仲間と励まし合い乗り越えてきました。ここで学んだことを現場に持ち帰り、理論と実践の融合を図るよう、精いっぱい精進していきます」と、それぞれに決意を語った。

みよし市との包括協定締結(3/26)



本学とみよし市がさまざまな分野で連携協力する包括協定の締結式が、3月26日(月)、みよし市役所で行われた。

この協定は、教育研究をはじめ、障害学習、文化、スポーツ、まちづくり等の分野において相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的にしたもの。協定締結書を取り交わすのは、刈谷、知立、安城市について4市目となる。調印式では久野知英市長と松田正久学長が協定書に署名し、堅い握手を交わした。

久野市長は「近い距離にある愛知教育大学と、一層さまざまな分野での交流を深めていきたい」と述べ、みよし市の新しいまちづくりに大学からの協力を期待した。一方、松田学長は「この包括協定締結を機会に、教育支援を含めた多様な連携に取り組みたい」と意欲を示した。

第1回広報セミナー(3/26)

大学において重要さを増す広報活動について教職員に関心を高めてもらおうと、本学広報部会(折出健二部会長)による初めての「広報セミナー」が3月26日(月)午前10時30分から、第五会議室で開催され、教職員、学生など計40人が参加した。

この日の講師は、NHK名古屋放送局のアナウンサー、村竹勝司氏。テーマは「語る・伝える・つなぐ ことばを見直す」。夕方のローカルニュースでおなじみの村竹氏は、まず「こんばんは」の一言へのこだわりを紹介。「次に明るいニュースか暗いニュースかで、あいさつの仕方も変えています」「ドレミファソラシドのソの音がその人の、“シン”の音。その音をポーンとまっすぐに出すだけで、通りのよい音になります。言葉は音ですから、聞き心地いい音にすることで、印象も変えられる。調子が悪い時、ソの音から始めるといいですよ」などと、声のプロならではのコツを伝授。



音の次は、言葉。「今日の天気を伝えてください」「駅への道順を説明してください」と参加者に投げかけ、指名を受けた参加者が上手く伝えられず苦戦する場面も。そんな体験を通して、言葉で伝えるには、相手への思いやり、伝えたいという意気込みが大切なことを指摘し、東日本大震災の際には、視聴者の命を守るために津波への注意喚起を3時間連呼したエピソードを披露。ほかにも、短い文章を例に挙げ「文章の切れるところで意味が変わる」「伝えたいキーワードはゆっくり」、数多くのインタビューの経験から「黙って相手の言葉を待てば相手が本音を語りやすくなる」など、コミュニケーションに役立つテクニックも紹介した。



参加者からも「伝える時間が長すぎる場合はどうしたらいいか」「ら抜き言葉は放送で認められているのか」「モットーにしているのは？」など幅広い質問が飛び出し、1時間半の講演時間に活発なやりとりが行われ、参加アンケートの回答には「大変よかった。ためになった」「次回も参加したい」などの感想が多数寄せられ、好評のうちに終了した。

退職者永年勤続表彰式(3/26)

2011年度の退職者永年勤続表彰式が3月26日(月)午後2時から第五会議室で行われた。

今年度の対象者は、佐野竹彦特別教授(障害児教育) 渡邊貢次教授(養護教育) 原口芳明特別教授(学校教育) 生島博之特別教授(教育臨床学) 安藤重和特別教授(国語教育) 風岡正明教授(国語教育) 渡邊和靖特別教授(社会科教育) 南守夫教授(外国語教育) 林誠特別教授(数学教

育) 隈本浩明特別教授(音楽教育) 永田暁情報図書課副課長、原田茂行附属学校課副課長、間淵信行附属学校課専門職員の計13人。

表彰式にはうち9人が出席し、一人一人に折出健二理事(総務担当)から感謝状と記念品が手渡された。折出理事は「長きにわたって、本学の発展に尽力くださった皆さんに感謝申し上げます。退職されますが、新たな生活の1ページを歩まれ、これからもぜひ若手を支えていただきたい」と長年の功績に感謝の言葉を贈るとともに、今後の支援を呼び掛けた。



被表彰者を代表して、安藤特別教授が謝辞を述べ、「(振り返ると)あつという間だったような、長かったような。ただ一つお願いしておきたいのは、軍国主義的な動きが出てきていますが、愛知教育大学では決してそのような方向に進まないようにしていただきたい」などと、本学への思いを口にした。

被表彰者を代表して、安藤特別教授が謝辞を述べ、「(振り返ると)あつという間だったような、長かったような。ただ一つお願いしておきたいのは、軍国主義的な動きが出てきていますが、愛知教育大学では決してそのような方向に進まないようにしていただきたい」などと、本学への思いを口にした。

お知らせ・報告・投稿

2012 教科開発学研究会(報告)



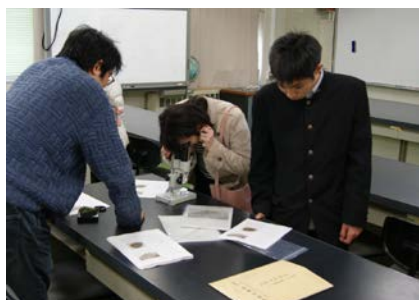
3月4日(日)に愛知教育大学で「2012 教科開発学研究会」が開催されました。

この研究会は、教育環境学と教科学を融合した新しい領域としての教科開発学を研究することを狙いとしています。研究発表会では、午前中、二つの分科会に分かれて8件の研究の発表がされ、熱心な発表と活発な議論が展開されました。午後は、シンポジウムとして樋口聡氏(広島大学)と三宅なほみ氏(東京大学)による講演が

なされ、共同教科開発学専攻が目指すべき研究と教育について活発な意見交換が行われました。

共同教科開発学専攻は、教員養成系大学学部では初めての共同大学院博士課程として設置され、大いに期待されています。本専攻から優秀な研究者が育ち、教科開発学の研究が発展していくことを願っています。(共同大学院開設準備委員長 都築繁幸)

火星隕石観察会(報告)



3月6日(火)の火星最接近を記念して、10日(土)、本学の自然科学棟で火星隕石の観察会が開催されました。児童生徒9人を含めて、34人の方々が参加。実体顕微鏡を使用して2種類の火星隕石(ザガミ隕石:シャーゴット、ナクラ隕石:ナクライト)の観察を行いました。

ザガミ隕石には火星を飛び出す際の衝撃で形成したガラスが含まれています。そのガラスには火星大気(火星探査機が分析)とよく一致する成分のガスが含有されており、

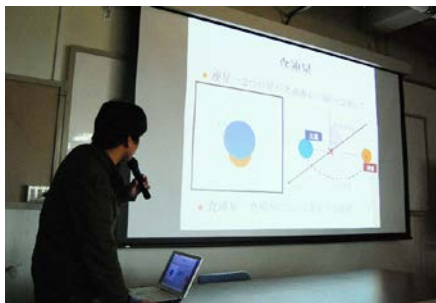
火星起源の重要な証拠となっています。ナクラ隕石にはマグマ中で生成した結晶の粒が降り積もることによって形成した集積岩構造(ゆるやかな結晶の集合構造)を示しています。このような構造が誕生するには惑星サイズの天体による強力な重力が必要であり、火星が有力な候補となっています。観察会では、参加者全員に、ガラス部分の存在と集積岩構造の存在を自分の目で確か

めてもらい、納得できる観察会とすることができました。

見逃された方、もう一度みたい方は、科学・ものづくり教育推進センターまで、お越しください。また、センターでは、月の石（高地と海の2種類）も見ることができます。多くの学生さんの訪問をお待ちしています。（科学・ものづくり教育推進センター研究員 佐々田俊夫）

天文台一般公開(報告)

本学天文台の第70回一般公開が3月10日(土)午後4時30分から行われ、天文ファンら108人が参加した。



講座前の金星観望会では、雲り空が晴れて、青空に白く輝く金星を観察。同5時からの講座では、この3月に卒業する澤武文研究室の学生3人がそれぞれの卒業研究について話した。

宮森俊さんは、「食連星 V404And の観測と光度曲線の解析」のタイトルで、天文台の40cm望遠鏡を使い食連星 V404And を観測し、その光度曲線から連星の光度比、半径比、軌道傾斜角などを求める方法とその結果について解説。

二つの星の半径の和が連星間距離の7割ほどもある連星であることが解析から示されると、参加の子どもから「そんなに近くに星があるのに、なぜ落っこちないの?」という素朴な質問が、別の参加者からは「解析では星を球形と仮定しているが、そんなに近いと星が楕円形に変形していないか」という鋭い質問も飛び出し、宮森さんが的確に答えた。

続いて、森山浩一さんが「銀河の形状に関するN体シミュレーション」、内本亮介さんが「大小マゼラン雲の軌道に関する研究」について、それぞれ発表。大学での卒業研究がどのようなものか、参加者は興味深そうに耳を傾けていた。

午後6時からの観望会では40cm望遠鏡で、半月状の金星、2本の縞模様と4個の衛星の見える木星、東の空に赤く輝く火星を観察。小望遠鏡では、水星やカノープスの観察も行われた。

「3D宇宙の旅」上映会は、これまでの4年生に代わって、3年生が担当し、3回の上映を行い、参加の親子連れなどが宇宙の旅を楽しんだ。

詳しい報告、次回のお知らせは天文台ホームページで。

[\(http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/\)](http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/)



校章入りえびせんべい発売(お知らせ)



本学のシンボルマーク入りのえびせんべいが、大学オリジナルグッズとしてお目見えし、3月半ばから本学生協での販売が始まった。

えびせんべいは、1箱30枚入りで1050円(税込み)。2枚ずつ、個袋で包装され、カキツバタをモチーフにした大学のシンボルマークがあらわれている。大学のお土産などに利用できるようにと、本学事務局が企画、碧南市のメーカーに製造を委託して、商品化された。サクッと軽い歯触りと、ほんのり塩味のえびの風味が特徴。

間もなく、箱入りのほかに、2袋(4枚)で105円のお手軽なパッケージ入りも発売の予定。

Campus Now! 第16号を発行(お知らせ)

愛知教育大通信「Campus Now! 第16号」が4月1日に発行されました。

Campus Now! は年2回、4月と10月に、大学広報室が発行。学生支援課、国際交流センター、

美術教育デザイン教育などが学生有志とともに、企画、編集した学生参加型の広報誌です。



今回の表紙を飾るのは、卒業生の皆さん。晴れ姿でポーズを決めています。

コンテンツは「学長から新入生へのメッセージ」「理事との座談会」をはじめ、「学生の活躍」「ユニーク授業訪問」「就職体験記」「部活・サークル紹介」「国際交流」など。「生協学生委員会より」では、自然豊かなキャンパスの紹介も。

新入生にはオリエンテーションで配布しますが、そのほかに、学生サポートセンター、附属図書館、生協などで4月上旬から配布を開始しますので、皆さんのキャンパスライフにご活用ください。
(広報部会)

催しもの案内

◆目からウロコのアート展 selected

4月11日(水)～27日(金) 入場無料

附属図書館 アイ♥スペース

2010年、2011年に刈谷駅前アクアモール内「スペース Aqua」で開催された同展からセレクトした作品と新作を紹介。美術教育彫刻技術Ⅱの加藤マンヤ講師と学生の出品の12点ほどを展示。

◆新入生歓迎ランチコンサート

4月18日(水) 12:30～13:15 入場無料

附属図書館 アイ♥スペース

音楽科の学生による、新入生歓迎のランチコンサート。

◆愛知教育大学天文台「第71回一般公開」子どものための講座と観望会

4月21日(土) 13:30～16:00 入場無料、申込不要

自然科学棟5階・地学538教室、屋上天文台ほか。雨天の場合も観望会以外は開催。

13:30～14:30 子どものための天文工作教室「金環日食観測グッズを作ろう」、

14:30～15:00 子どものための天文ミニ講座「日食の安全な楽しみ方」、

15:00～16:00 観望会「太陽と金星の観望会」と「3D宇宙の旅」上映会。

問い合わせ：理科教育講座 天文学研究室 TEL 0566-26-2624

編集後記



学内の施設サインの整備が始まっています。事務棟で来外者の多い本部棟のロビーにも、各課の案内板が設置されました。フロアごとに色分けされ、以前より分かりやすくなりました。この後、大学マップの整備や建物のサインも順次、設置される予定です。今年冬には受験生の心が和むようにと、バス停坂に花壇が整備されましたが、新学期が始まり、新しく多くの人を迎えるキャンパスが、さらに人に優しく“進化中”です。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二